

# かすか

平成30(2018)年12月8日

春日神社

三重県指定有形文化財(建造物)春日神社拝殿解体修理事業だより 第3号

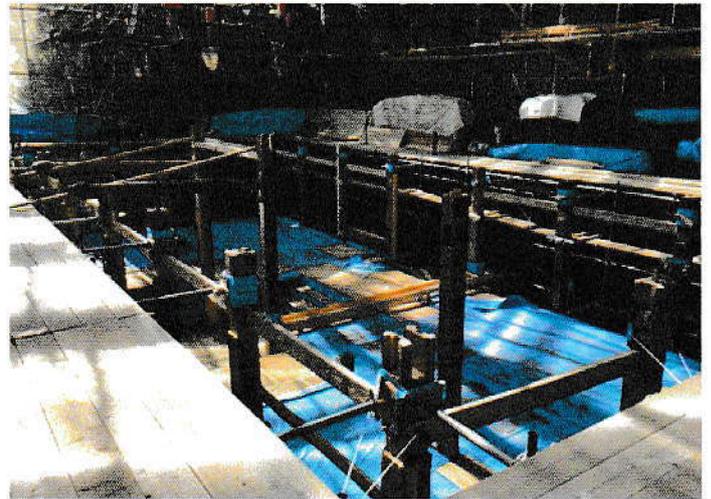
## I. 春日神社拝殿保存修理事業の今・・・

平成29年12月に始まった解体工事は、正面の4本の柱を除いて平成30年6月にすべて解体されました。解体された部材は近くの倉庫に保管し、その一部は修理のため順次工場に運んでいます。そして柱や梁といった主要部材は、指導委員会で指導・助言を受けて工場において補修作業が行われています。

現在、拝殿は礎石や束石のみを残した状態となっていて、6月に地盤調査を行いました。拝殿基壇の北西部と南東部の2か所でボーリング調査を実施し、地質の詳細なデータを得ることができました。このデータをもとに拝殿の耐震補強の方法についても検討しています。



軸部解体作業



軸部解体作業



解体作業最終段階



解体後

## Ⅱ. 解体された主要な部材について

解体された部材は、種類ごとに分類され、一つ一つ丁寧に観察し、加工の痕跡や釘の位置などを記録しました。

柱は計27本で室町時代のものが4本、江戸時代のものが22本、昭和時代のものが1本でした。昭和の柱のみがヒノキ材で他はすべてマツ材でした。比較的損傷の少ない柱については、部分的に新しい材を継いで補修することが可能と判断できましたが、腐食が柱の全体に進んでいるものや、補修によって柱の強度が不足する恐れがあるものについては、全体を新しい材に交換する必要があります。

軒桁<sup>のきげた</sup>は計10本で、室町時代のものが8本、江戸時代のものが1本、昭和時代のものが1本で、すべてマツ材でした。虹梁<sup>こうりょう</sup>は計6本で室町時代のものが4本、江戸時代のものが2本で、すべてマツ材です。繫梁<sup>つなぎばり</sup>は計7本で室町時代のものが6本、江戸時代のものが1本ですべてマツ材です。桁や梁といった建物の上部を構成する部材は、柱と比べ、室町時代のものが多く残っており、損傷しているものが少ないことが分かりました。

部材の調査では、墨書も見つかっています。文字や数字を書いたものと思われるものがほとんどですが、馬を描いたものもあります。



柱の調査風景



柱の補修の検討



部材の保管状況



馬を描いたと思われる墨書

### Ⅲ. 部材の補修について

記録調査を終え、指導委員会において指導・助言を得て補修方法が決定した柱は、現地から工場へ運び、補修を実施しています。

部材は、虫食いと腐食で劣化した箇所を除去し、除去した箇所の形状に合わせた補足材を作り、それをはめ込んで元の形状に戻す作業をしています。補足した部分は、当初の部材の色合いと異なっているため、古色塗を施して元の部材の色合いに近い状態としていきます。

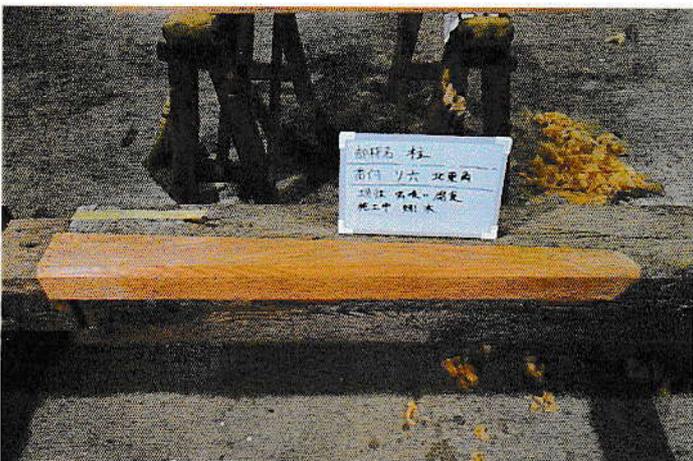
#### 柱の補修状況（り・六）



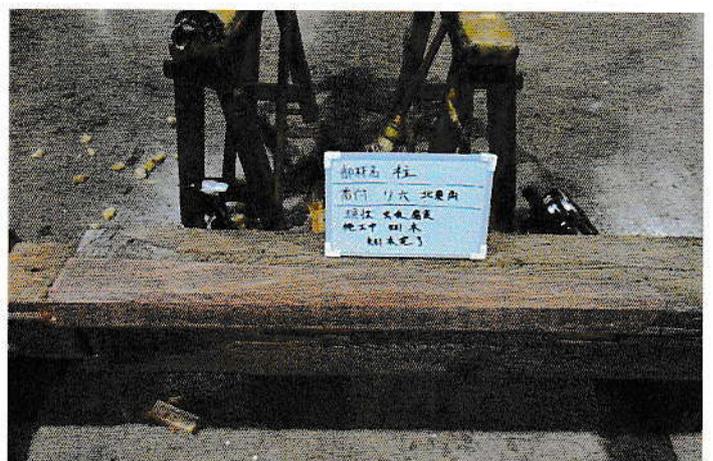
補修作業前



損傷箇所除去



埋木完了

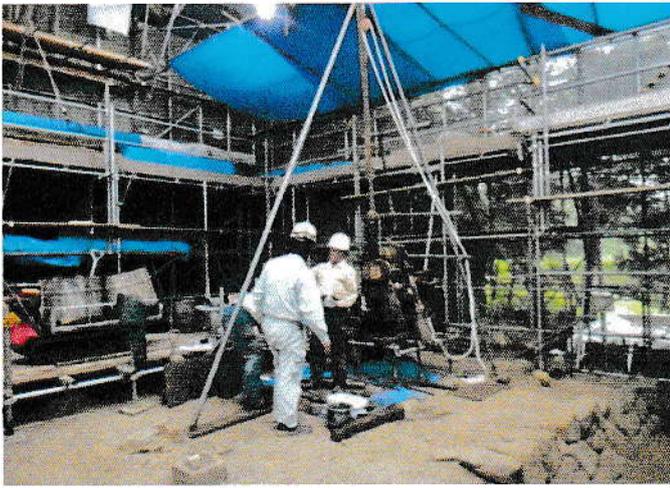


古色塗・補修完了

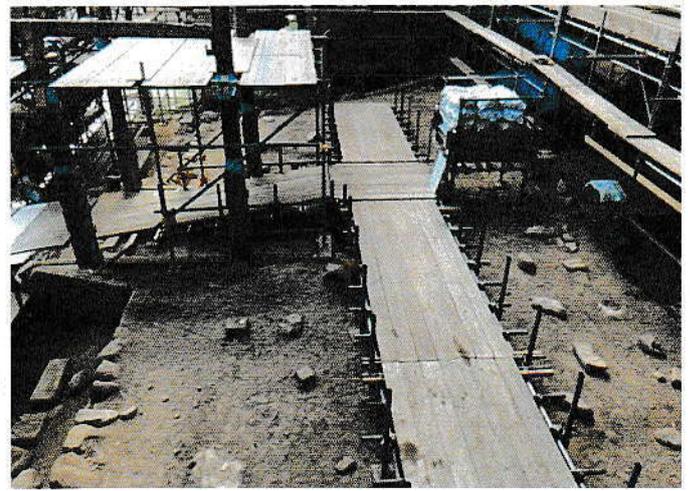
### Ⅴ. 地盤調査について

拝殿を再び元に戻す作業を行う前に、拝殿が立っていた地盤の調査を実施しました。調査は、拝殿の基壇部分の南東と北西の2か所でボーリング調査を実施するとともに、中央ほぼ北よりの箇所で基礎に見立てた小さな鋼板（直径30cmの円盤）を置いて、実際の建物に見合う重量をかけて沈下量を測定し、地盤に支持力があるかどうかを判定する「へいばんさいか しけん平板載荷試験」を行いました。

この結果、地盤はかなり強固であり、建物の重量に耐えられる支持力があることが分かりました。このような調査結果を踏まえ、建物の基礎や耐震構造の補強の検討に活用していきます。



ボーリング調査（南東側）の様子



平板載荷試験

## VI. 棟札調査について

6月22日、棟札と狛犬の調査を実施しました。棟札は宝永7年(1710)から平成6年(1994)までの55枚の棟札の大きさを調べ、記載されている内容を判読できるよう写真を撮りました。

今後はどのようなことが書かれているのか調査を進めます。



宝永7年の棟札  
(表)



(裏)

## VII. 現場説明や見学について



学校法人高田学苑高等学校社会科教員研修の様子

修理の目的や内容について現場で説明しました。

5月11日 壬生野小学校1・2年生(70名参加)

7月5日 学校法人高田学苑高等学校社会科教員研修  
(9名参加)

10月6日 奈良県の春日大社の臨地講座(26参加)

10月14日 壬生野地域によるウォーク(5名参加)

春日神社と壬生野地域の歴史を知っていただき、建物の解体や部材の補修に興味を持っていただきました。

## VIII. 今後の調査や工事について

柱や梁の部材補修を引き続き実施していきます。並行して部材の詳細な記録を調査しながら、復原の形状や耐震構造補強などについて、指導委員の指導・助言を受けながら検討していきます。

建物の修理とともに資料調査、座や講の民俗調査など引き続き進めていきますので、ご理解とご協力をお願いします。